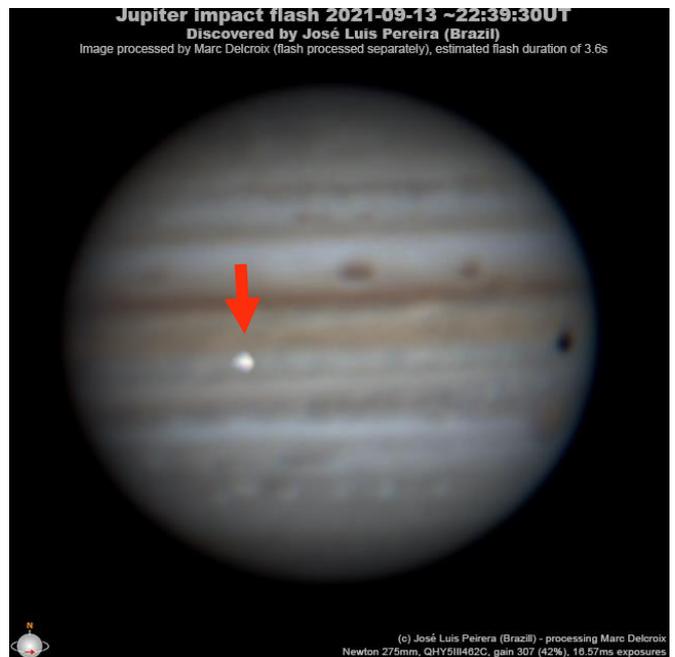


速報 ^{せんこうかんそく} 木星面に閃光観測される

さる9月13日22時(世界時)、木星に閃光現象が観測されました。これは1.5秒ほど木星面のある一か所が光る現象です。(残念ながら日本からは木星が見えない時刻です。) 閃光現象は2、3年に一度程度の割合で観測され、その原因は小さな天体の衝突(氷を想定すると直径数メートル)と考えられます。閃光は2010年(2回)、2012年、2016年、2017年、2019年と観測されていますので、今回は約2年ぶりの観測ということになります。

木星ほど遠いところの、直径10メートル以下の小さい天体は地上から観測することは不可能です。しかし、はからずも木星そのものが閃光として手掛かりを与えてくれています。

これまでの例では、1つの閃光を観測したのは1か所から4か所の独立した観測者でした。見逃してしまった閃光はなかったのでしょうか？ところが今回は、ブラジル、フランス、イタリア、ドイツ、ルーマニアで9つの独立の観測が記録されました。いずれも閃光を狙っての観測というわけではなく、見やすい位置にある木星を撮影しているの出来事です。木星はかなりの時間帯モニター(監視)されており、観測数は実際の衝突の数に近づいているのではないかと考えられます。とは言ってもこれは数字の桁が合っているというレベルの粗い見積もりです。もちろん地球からは木星の片側(昼側)しか観測できないので、実際の数は単純にその2倍と想定することができます。



2021年9月13日、木星に現れた閃光(赤い矢印)ブラジルのホセ・ルイス・ペレイラ(José Luis Pereira)さん撮影

2021年10月10日記(解説員:田部 一志)